鈴木敏司家寄贈文書目録及び目録の作成にあたって

1　鈴木家寄贈文書は、A：日記とB：文書に分けられる。

　Ａの日記については明治 38 年から昭和4年３月 31 日までの30冊あり、つぎの二種類に分類される。

Ａ－14の大正２年度までは、竪12×横8cmの懐中日記で、毎日のことが改行なしで細かに書きつけてある。

Ａ－15の大正3年からは、既成の当用日記を用いて書かれている。とくに大正3年から6年までの3年間は、「實業之日本社版『重要日記』」を使用し、そのうち　Ａ－17の大正5年のみは大阪の積善館発行『新式当用日記』（いわゆるポケット版）が使われている。

Ａ－19の大正7から最終年の　Ａ－30までは「博文館『当用日記』」に固定して使われている。

B　の文書は、総史料番号で51点である。そのうち初めの3点はいわゆる和紙による古文書、あとはいわゆる近代文書である。

2　鈴木日記と文書類の史的価値は、須坂の近代史にとって非常に高く貴重である。

　鈴木日記は、鈴木与喜治が北信新報須坂支局長ならびに町会議員を務めるほか、町内の有力者―上原吉之助・田中邦治・高橋庄右衛門などと親交があり情報をえやすい立場にあった。そのため、ポケット版の手帳ながらびっしりと記事が書かれ市誌の内容を裏付ける具体的事象がメモってあり、近代資料として価値が高い。

　付録として鈴木敏が選定した『鈴木日記抄』をかかげたので、約30年間の須坂町における具体的事象を追ってみることができる。

　本史料目録は、鈴木家のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の青木廣安が作成した。

2015 年９月　　須坂市誌編さん室